

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	システム工学実験第二		
英文授業科目名	Systems Engineering Laboratory II		
開講年度	2004年度	開講年次	3年次
開講学期	6学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	3
科目区分	専門科目-専門共通科目-必修科目		
開講学科・専攻	システム工学科		
担当教官名	T全教官		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
2004年度世話人：山本 大屋	http://www.pclab.se.uec.ac.jp/workshop/

【主題および達成目標】
コンピュータを用いた情報処理、大規模な情報システムに関するシステム工学の重要事項について、実験を通して習得する。

【前もって履修しておくべき科目】
コンピュータリテラシー、基礎プログラミング、情報リテラシー

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
各項目の関連科目

【教科書等】
各項目ごとに資料を配布する。

【授業内容とその進め方】
<p>オリエンテーション（1回）の後、下記の8項目についてそれぞれ3週間にわたり実験を行う。</p> <p>前半の4項目では、ハードウェアの取り扱い、及び、その特性の計測。ソフトウェアのハードウェア化におけるアルゴリズムの検討、及び、実際のプログラミング。制御装置の設計、実際の制御、計測。コンピュータを用いた生体情報に関する計測、処理、評価、解析などを主に実習を通して習得する。</p> <p>後半の4項目では、ソフトウェア工学とその実践的な応用、データベースからの情報検索、生産現場における情報システムの設計と管理。品質管理における情報検索、情報システムの管理や運用、実験の計画、などを主に実習を通して習得する。</p> <p>1. アナログ回路</p>

電気通信大学 平成16年度シラバス

2. デジタル回路
3. 制御工学
4. 生体情報の取得・解析・評価法
5. ソフトウェア工学
6. データマイニング
7. 生産マネジメント
8. 品質管理

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

欠席・遅刻・早退、実験への取り組み方、報告書を総合して評価する。

【オフィスアワー：授業相談】

各項目の担当教官の指示に従うこと。実験全般については、世話人にコンタクトをとること。

【学生へのメッセージ】

(例)

「もの作り」にたずさわる人にとっては勿論のこと、たとえハードウェアを扱わなくてもシステムの動作原理を理解し、発展させるためには、電子回路の基本を十分理解している必要がある。授業中に一つずつしっかり理解していけば、難しい内容ではない。

【その他】

原則として、全24回の実験へ休むことなく出席し、レポートを期限内に提出すること。実験の単位を修得するためには、全ての実験に真摯な態度で取り組み、適切な報告書を期日までに提出する必要があります。また、実験前日は十分な睡眠をとり、気力・体力の充実した態勢で実験に望むことを希望します。